平成25 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000513		
法人名	特定非営利活動法人あおぞらの会		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	児湯郡都農町大字川北18922番地3		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4572000513-00&PrefCd=45&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは高台にあり、森林に囲まれた自然豊かなところです。鳥のさえずりが聞こえ、四季折々の景観を楽しむことができ、庭には家庭菜園や美しい花が咲きます。そして広いﾃﾞｯｷからは海を見渡すこともでき、大変恵まれた環境にあります。今年でまる13年を迎える当ﾎｰﾑは「元気に!笑顔で!思いやり!」の標語を掲げております。この言葉を胸に利用者の皆様や職員一人ひとりが笑顔を絶やすことのないようこれまで培ってきた経験を生かしながら、進化した取り組みを行って参ります。ﾎｰﾑの玄関を開けた瞬間は心のｽｲｯﾁｵﾝと気持ちを切り替えることとし、毎日穏やかな日をｽﾀｰﾄさせられるように皆さんが楽しく安心に、そして幸せに暮らせるよう雰囲気づくりに努めて参ります。月に一度、開催される地域行事「ふれあいｲｷｲｷｻﾛﾝ」には当職員は、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱとして利用者は生きがいづくりを楽しむ場として積極的に参加し、地域交流を深めております。今後も職員全員が理念に沿いながら、統一したｹｱを提供していけるようように、利用者の皆様と職員が共に寄り添い、笑顔で安心して暮らし続けていけるよう、利用者本位の対応、そして地域からも信頼されるｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑを目指して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、地域とのつながりが大切であることを切に願い、地域の人々と積極的にかかわり、地域生活の継続支援や地域での役割、関係を密にしようとする取組をしている。自治会長や公民館長等の協力の下、いきいきサロンを立ち上げている。サロンでの交流は、利用者と共に旅行を楽しむまでに発展している。更に、避難訓練や行事関係の参加はもとより、近隣の散歩では気安く声掛けやお裾分けを頂くなど、良好な関係を構築している。また、協力医療機関との連携も良く、昨年5月には看取りを行っている。管理者や職員は、利用者の思いに寄り添い、家庭的で居心地の良い環境の提供や楽しみごとへの参加、地域との交流の大切さの理念の下、確実に実践し、安心して地域で暮らせる生活の場を支援している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を意識しながら仕事ができるよう、目に入る場所に掲示し、共有、実践につなげている。	3つの理念を掲げ、管理者と職員はその理念を共有している。地域住民との積極的なかかわりや外出支援、また、花作りや料理を利用者と共に楽しみ、日々行き届いたケアの実践の中に理念が生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や活動にできる限り参加したり、ホームの行事への招待など、交流を図るように努めている。	自治会に加入し、地区の掃除や敬老会への参加、また、いきいきサロンでの交流、近隣の散歩時の立ち話やお裾分けを頂くなど、地域の人々と触れ合う機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方やご家族に向けて毎年1回、認知症についての講座を開催したり、キャラバンメイトとして地域へ出向き「サポーター養成講座」を開催し、協力を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、運営推進会議において様々な取組みの報告や事故報告などを行い、意見、アドバイスを頂き、サービスの質の向上に活かしている。	ホームの活動報告と共に地域の行事等の把握をしている。また、地域の問題等、その時に応じて婦人会長や警察署員の参加があるなど有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に出席していただくことで相談等、連携をとっている。	行政担当者とは相談しやすい関係である。運営会議の参加はもとより、問題事の相談にはホームへ資料を持参されたり、サロンに参加して頂くなど、良好な協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をしないなど、全ての職員が正しく認識し、身体拘束のないケアを実施している。	拘束の弊害については内・外部研修において学ぶ機会があり理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加したり、勉強会を実施し、周知を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者はいないが、必要性について考え理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人やご家族へ十分説明し、理解、同意を得ている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者、家族、地域行政の代表の方が出席し、要望、意見交換の場となり運営に反映されている。	家族会や来訪時に、要望や意見が出しやすい雰囲気作りに努めている。また、ホームは利用者、家族と共に暮らしていきたいと願っており、遠慮のない関係づくりに努力している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員からの意見や提案の声を聴けるように心がけ、改善など職員会議や申し送り時に話し合い検討し、必要に応じて反映している。	職員会議の場や日ごろから意見が言い合える場にしている。新人職員の新たな発想も加わり、出された意見や要望は運営に生かされいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況等には常に気配りをしながら、職員が働きやすい環境を考え、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者、及び職員に対して段階的に応じた研修や職員希望の研修についても働きかけ、協力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の交流会や研修に参加したり、系列の施設での内部研修に参加するなどし、情報交換の場となり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族にホーム内の雰囲気等を見て頂き、必要な時には自宅など訪問して情報交換を行い、信頼関係を築き、不安なく入居して頂けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族側の気持ちも理解し、安心して相談しやすいよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの情報や本人の状態、意向を確認し、最も適したサービスが受けられるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活者の一員として好きなこと、出来ることや得意なことに働きかけながら、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすい環境作りに努めたり、本人の日頃の生活や健康状態を報告し、把握して頂いているなど、共に支援していけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の希望や本人の要望に応じて、その都度、対応している。	なじみの店へ買い物に行き、知人に会い世間話をしたり、移動困難な利用者の帰省希望を家族と共にかなえるなど、できる限りの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう職員が間に入ったり、利用者同士の関係を考慮して、良い関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人、家族の経過をフォローし努めている。また、以前入居されていた方のご家族が、施設の行事にも参加して頂けるなど、関係が続いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に聞き取り、希望・意向の把握に努めている。困難な場合は、その方の立場に立って考えるように努力している。	本人の思いをくみ取る努力をしている。不穏な利用者には横に座り、ゆっくり手を触れることにより落ち着いたり、趣味の盆栽を持ち込んでもらい、楽しみごとの継続維持など、本人の思いを大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人や家族に聞き取り、入居以前の生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察により、一人ひとりの状況を把握し、職員間で情報を共有し、その時に応じた接し方をしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見、要望を取入れ、リーダーと担当職員、計画作成者とで話し合い、共同で介護計画を作成している。	担当制を設けており、担当者、リーダー、家族等の意見を聞き、センター方式（認知症の人のためのケアマネジメント方式）を利用し、現状に即した介護計画を作成している、毎月モニタリングを行い3か月ごとの見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、できる限り柔軟にサービスを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力を得ながら、ボランティアの慰問や地域のサロンに参加したり、楽しみながら交流ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を利用している。月に1回の訪問受診、急変時の対応など、適切な医療が受けられるよう支援している。	ほとんどの利用者が協力医療機関を利用している。協力医療機関へは、利用者の介護計画を渡しており、定期的な往診や急な場合でも適切な医療が受けられる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関や看護師へ日々の心身の状態や情報などを的確に伝え相談し、指示を受けながら適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、適切な治療ができるよう本人の情報提供書を提出し、早期に退院できるよう家族と共に努めている。また、退院の際には担当医師も含めカンファレンスを行い、情報を共有し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期には医師、看護師と本人、家族と十分な話し合いを行っている。 「できること、できないこと」を適宜説明し、確認を行い、全員で方針を共有できるようにしている。	重度化した場合の対応については、家族や関係者と十分話し合い、希望に沿うようできる限りの支援を行う方針としている。協力医療機関は、職員全員に看取りの勉強会を催すなど協力的である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急救命AEDの取り扱いなどの研修を定期的に行い、適切な対応ができるように全職員で知識を高め、実践対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、火災避難訓練、防災通報訓練を実施している。運営推進会議でも地域の方々と災害について話し合い、協力体制を築いている。	定期的に消防署や地域住民の参加を得て避難訓練をしている。運営推進会議のメンバーから、緊急連絡先になる申し出があるなど、地域との協力体制が構築されている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを大切にし、本人にとって理解しやすく心地よい言葉かけや対応を心掛けている。日常的に職員同士で確認し合い、尊厳に努めている。	利用者一人ひとりの人格を尊重した接遇をしている。食材の下ごしらえ等、学ぶことが多いと職員は人生の先輩としても敬っている。接遇の勉強会も定期的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉に耳を傾け、思いが聴けるよう努めている。意思疎通の困難な方に関しては、表情と本人の気持ちに寄り添ったケアを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や状態に配慮しながら、自分のペースで暮らせるように生活を乱すことなく柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれの部分については、本人の意思を尊重しながらできない部分を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、片付けを可能な限り一緒に行い、職員は同じテーブルを囲んで楽しく利用者と食事がとれるようにしている。	職員は、利用者と同じテーブルで同じものを食べ、介助の必要な利用者にはさりげなく介助しながら楽しい食事になるようにしている。月１回、利用者と共になじみの料理を、下ごしらえからする日が設けてあり、楽しみの行事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態で提供している。十分に栄養がとれていない方については、家族に相談して栄養補助食品を摂取したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをしてそれぞれに応じた口腔ケアを行っている。また、義歯は定期的に消毒し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを周知して、排泄の失敗がないように声かけ誘導を行っている。トイレでの排泄が続けられるように、下肢筋力低下の予防にも努めている。	排せつ表を作成し、排せつパターンを把握し声かけ、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のサイクルを把握し、水分や食事、体操、散歩などで予防し、できるだけ自然排便ができるように心掛けている。便秘時には支持を受け、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調など状況に応じ、できるだけ本人の希望に沿うように支援している。拒否のある場合は無理強いせず、時間をずらしたり翌日に変更するなど対応している。	毎日入浴は行われている。1対1の支援にし、日ごろ聞けない話に耳を傾けたりして、入浴が楽しみの一つとなるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の訴えや状態に応じて、ソファーなどでくつろぎ休息をとっていただける環境を作っている。夜間、気持ちよく安眠できるように、日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の服用する薬の目的、用法用量を周知しており、医師の指示通り服用できるよう支援している。薬の変更や状態変化が見られたときは、症状の変化の確認を行い、申し送りノートにて把握できるよう連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣等を大事にし、一人ひとりの力に応じ日常生活の中で楽しみや役割を持っていただき、張りのある生活が送れるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の体調に合わせて散歩や買い物に一緒に出掛けたりしている。できる限り本人の希望にそった外出の支援となるよう、時に家族の協力を得て、遠出や墓参り等に出掛けている。	日常的に近隣の散歩や買い物に出かけている。特に近くの高台にあるワイナリーは好評でよく利用している。いきいきサロンのメンバーとグランドゴルフや食事、温泉を楽しんでいる利用者もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に2回、訪問のパン販売には好きなパンをご自分の財布より支払いされ、買い物が楽しく行えるよう支援している。日常の買い物においては本人、家族と相談の上、決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、いつでも電話をかけたり取り次いだり、家族や親しい人と連絡がとれるように支援している。手紙や小包が届いた場合は、ご本人へ直接手渡し、必要時には代読を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に居心地よく過ごせるよう、温度・湿度を保つよう配慮している。季節感が味わえるよう玄関、食卓には常に季節の花を活け、落ち着いて過ごしていただけるように努めている。	広いウッドデッキとつながっている共用空間は、採光も程よく清潔に保たれている。利用者は思い思いにソファやいすに座り、台所で仕事をしている職員との会話を楽しんでいる。家庭的な雰囲気で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的な雰囲気の中、ソファーでは利用者一人で、また、気の合う利用者同士でも安心して過ごせるよう座る場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真、鏡台、ベット、使い慣れた日用品など、馴染みや思い入れのある物が持ち込まれ、その人らしく安心して過ごしていただけるように配慮している。	各居室にクローゼットがしつらえてあり、思い思いの生活用品が収納されている。また、使い慣れた鏡台や寝具、ベッドも持ち込まれ、本人が安心して暮らせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの目印や表示をしたり、混乱を防ぐようにしている。個々の力に応じた行動を見守り、補助具の使用や環境整備に配慮し、安全に生活していただけるよう工夫している。		